

会 議 録

会議の名称	行田市立図書館協議会
開催日時	平成20年12月17日(水) 開会：13時55分 閉会：15時35分
開催場所	図書館 ミーティングルーム
出席者(委員)氏名	保泉委員長、長谷川副委員長、寺田委員、奥山委員、大澤委員 東委員、小林委員、木島委員、阿久津委員
欠席者(委員)氏名	松井委員
事務局	安部図書館長、吉田
会議内容	(1) 平成21年度の図書館運営の基本方針について (2) 「行田市子ども読書活動推進計画」の進捗状況について (3) 先進地視察について
会議資料	(資料名・概要等) ①行田市立図書館協議会会議資料 ②「行田市子ども読書活動推進計画」に関するアンケート調査の集計結果 ③行田市子ども読書活動推進計画
その他必要事項	

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事 務 局	<p>市民憲章唱和</p> <p>委嘱状の交付 行田市教育委員会 保泉教育委員長</p> <p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ 行田市立図書館協議会 保泉委員長</p> <p>3 議 事</p>
事 務 局	<p>（１）平成２１年度の図書館運営の基本方針について</p> <p>市では、新年度に向けて予算編成を行っているが、図書館では、次の３つの基本方針を基に２１年度歳入歳出予算案を策定した。</p> <p>【基本方針の１点目】</p> <p>図書館は「行田市教育文化センター建設基本計画」に基づき、開館から１０年後の平成２５年度までに、目標蔵書数３０万冊を目指し、利用状況、蔵書構成等を勘案しつつ図書の選定を行い、順次計画的に購入していきたいと考えている。別紙蔵書計画のとおり図書購入費として毎年度３千万円を要求している。</p> <p>【基本方針の２点目】</p> <p>平成１９年３月に策定した「行田市子ども読書活動推進計画」を積極的に推進していく。これは子どもの活字離れ、言語による問題解決能力の低下等が指摘されている現在、小さいときから読書に親しませることにより、子どもが言葉を学び、多くの知識を身につけ、深く考える力、これを国語力又は言語力ともいうが、それらを身につけた子どもの育成を目指していきたいと考えている。このことは、市長のマニフェストにある「未来の行田を担う子どもを育てます」の３番目に「国語力を身につけた子どもの育成」とも合致するものである。</p> <p>【基本方針の３点目】</p> <p>新図書館開館に伴い構築された「図書館映像システム及び図書館情報システム」は１９年度を以って、５年間のリース期間が満了となった。図書館映像システムについては平成２０年度に更新し、平成２４年度までの５年間のリース期間で現在稼動している</p>

	<p>が、図書館情報システムは、20年度は再リースにより対応している。</p> <p>しかしながら、再リースしたOA機器の処理能力では、貸出資料数の増加や多様化する利用者ニーズへの対応に追いつかず、フリーズなどのトラブルが度々発生している。本年4月から、現システムの見直しと改善点等を検討し、更新に向けての準備を進めているところである。平成21年度にはなんとしても将来の図書館運営を見据えた情報システムを構築し生涯学習の拠点施設として、図書館を整備充実させていきたいと考えている。</p> <p>以上3点、来年度図書館を運営するための基本方針として考えている。</p>
委員 事務局	<p>予定している情報システム更新は、どのような内容で行うのか。OA機器の構成はそのままで、機器の性能アップとセキュリティ強化を考えている。</p>
委員 事務局	<p>情報システムのOA機器は、リースの途中でバージョンアップをすることはできないのか。</p> <p>リース契約では当初のバージョンで期間とリース料が決まっているため、契約変更とバージョンアップに伴う経費が必要となる。</p>
委員 事務局	<p>蔵書計画の配架割合を見ると平成23年度には100%を超えているが、これは現在の書架では入りきらないということなのか。</p> <p>現在の書架では26万冊までしか配架できないため、閉架書庫に新たに書架を設置する計画である。</p>
委員 事務局	<p>当初の蔵書計画のとおり予算措置がされないのは問題である。市の執行部は図書の必要性を認識し、計画に沿った予算措置を行うべきではないか。</p> <p>できる限り計画に沿った図書の購入が進められるよう、努めてまいりたい。</p> <p>(以上、平成21年度の図書館運営の基本方針について、出席委員の承諾を得た。)</p>
事務局	<p>(2) 「行田市子ども読書活動推進計画」の進捗状況について</p>

本年11月に子ども達の読書環境に関する2度目の実態調査を行った。本日は、その調査結果を検証していきたいと考えている。

調査の目的は、子ども達の読書環境の変化を検証することとし、調査期間・調査対象は表記のとおりである。

【一般家庭を対象とした調査結果】

(1)は、調査対象となった子どもの人数だが、前回より30名ほど多く回答をいただいた。また、対象となった子どもの年齢だが、前回は2歳以下が大半を占めていたが、今回は2歳以下と3歳以上でほぼ半々となっている。なお、2歳児の回答が多い理由は、調査を実施した対象の中に、保健センターの2歳時の歯科検診の受診者が含まれているためである。その他、子育てネットによる子育てサークルや、グリーンアリーナで行われている体操教室の参加者なども対象とした。

(2)は、家庭で本を読んであげたことがあるかを伺ったところ、今回も1名が「ない」と回答した。

(3)は、初めて本を読んであげた年齢を伺ったところ、0歳と答えた方が前回より7ポイント増えている。市では、保健センターで実施している乳児の4ヶ月検診の中で、子どもに早くから本に親しみを持ってもらうため、受診された親子を対象にブックスタート事業を実施しているが、その成果の表れではないかと推測している。

(4)は、どれくらいの頻度で読んであげているかを伺ったところ、「毎日」または「週に3～4回」は前回とほとんど変わりはないが、「週に1～2回」が8ポイント増えている。これは、「毎日は難しいが週に1度は読んであげよう」という努力の表れではないかと推測している。

(5)は、一日の中でどの時間帯に読んであげているかを伺ったところ、「寝る前」が前回と比べ18.3ポイント増え全体の半数を超えている。これは、夜間は子ども向けのテレビ番組も少なく、仕事や家事が終わった時間帯にゆっくりと読んであげる家庭が増

えてきたのだと推測している。

(6)は、どこで読むかを伺ったところ、先ほどの時間帯とも関連しているが、前回と比べ「寝室」が3.9ポイント増えている。

(7)は、誰が読むかを伺ったところ、前回と比べて「父親」が4.2ポイント減少し、「母親」が4.6ポイント増えている。一般的には男女共同参画が進んでおり、子育てにおいても父親の役割は増えているものと思われるが、それとは逆行した結果となっている。

(8)は、主に何を読むかを伺ったところ、「寝る前」という時間帯が増えていることから、簡単に読める絵本が中心となっている。

(9)は、図書館を利用したことがあるかを伺ったところ、前回と比べ「利用したことがある」が12.8ポイント増えている。これは、私たち職員にとっても大変喜ばしい結果であり、今後も多くの方に利用いただけるよう、サービスの向上に努めてまいりたい。

(10)は、お話会に参加したことがあるかを伺ったところ、前回と比べ「参加したことがある」が17.9ポイント増えている。これも、図書館を利用する方が増えたことが要因と考えている。

(11)は、図書館への要望等を伺ったところ、ここに記載した意見があった。

この中で、複数の方からいただいた意見が何点かあるが、大きく分けて次の4つの内容に分けられる。

一つ目は、図書購入のリクエストなど貸出資料に関する要望、二つ目はDVDの貸出に関する要望、三つ目は本を探しやすくしてほしいという要望、そして四つ目として、来館した子ども達が話をしたり遊んだりできるスペースがあると使いやすい、といった要望である。

一つ目の図書購入のリクエストは、一般の利用者と同様にリクエストカードを提出すれば、その内容を吟味しできるだけ要望に沿うように対応している。

二つ目のDVDの貸し出しに関しては、現在、ビデオと音楽CDは館外貸し出しを行っているが、DVDは専用のチェンジャーにメディアを内蔵しているため、館内で視聴するのみとなっている。DVDを貸し出すためには、ビデオやCDと同じように盗難防止ケースを装着するほか、館内視聴専用のものと貸し出し専用のものに分ける必要があり、それを選定する基準も必要となる。このようなことから、必要な予算措置や、貸し出しに当たってのルールづくりなどが必要となるなど準備が必要だが、できる限り利用者のニーズに応えられるよう取り組みたいと考えている。

三つ目の本を探しやすくしてほしい、いわゆる配架に関する要望だが、このように探しづらいという意見は、日ごろはあまり寄せられないので、その原因について調べてみたところ、児童図書コーナーは一般の書架とはちょっと違った配架をしているのが原因ではないかと思われる。基本的には一般の書架と同じように、本の背表紙に添付してある請求記号により配架しているが、特定のシリーズの本などは請求記号に関係なくまとめて配架している。これは、子どもは実物の本を見て選んでいることが多いことから、同じシリーズの本などは請求記号にこだわらず、まとめて配架したほうが選びやすいのではないかという、子どもの視点に立った対応である。

しかしながら、大人の中には、子どもに読ませたい本をあらかじめ調べている方もおり、一般の書架のように請求記号で探した場合、先ほどのシリーズの本などは探しにくいことがあるものと考えられる。

児童コーナーの配架については、大人から子どもまで全ての方が利用しやすいよう引き続き研究し、工夫してまいりたい。

四つ目の子どもの遊ぶスペースについては、図書館は子どもからお年寄りまで、全ての住民が気軽に利用できることが理想的である。しかしながら、子どもの面倒を見ていると自分の読みたい本を探すことができず、利用を控えている方もいるようで、親が

本を選んでいる間、子ども達が自由に遊べるスペースがあればということである。現状ではそのような余分なスペースは無く、仮に場所があったとしても、子どもだけほっておく訳にはいかないので、面倒見る職員の配置なども必要になり、財政的な問題もあるので、現状では難しいと考えている。保護者には、せっかく図書館に来たのだから、親から子に本の楽しさを教えていただくとともに、公共施設を利用する上でのマナーなども教えていただければありがたい。

以上が、一般家庭を対象とした調査結果である。

次に、小中学校を対象とした調査結果について説明する。

(1)から(5)までの設問に対する回答の中で、特に前回と大きく変わったのが、(3)の読書意欲を高める活動である。「実施している」と答えた学校は、前は4校だったが今回は20校に増えている。これは、各学校で、それぞれの児童・生徒が自主的に読書をするよう、そのきっかけ作りになる取組を進めていただいている現われである。8ページからの(6)に各学校での取組を記載してあるが、それぞれ工夫を凝らし、子ども達が楽しみながら取り組める事業も多く見受けられる。

学校現場では、総合的な学習の時間の導入や、職場体験の実施など、通常の教科の授業以外に様々な教育活動を取り入れており、限られた時間の中で、子ども達の読書活動の推進にも積極的に取り組んでいる。活字離れが進む中、学校での取組は大変効果的だと思われるので、その成果に期待している。

次に、保育園・幼稚園を対象とした調査結果について説明する。

(1)は、各園で行っている読書活動について伺ったところ、前回と比べ図書コーナーを設置しているところが4件増えている。また、ボランティアによる読み聞かせの実施や貸出図書の設置などはそれぞれ1件ずつ増えており、着実に子ども達の読書環境は向上している。この保育園・幼稚園に通園している子ども達の中には字が読めない子どもも多いため、自主的な読書活動を進めるこ

<p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>とは難しいが、絵本の絵を見て想像力を養うなど、本に親しむきっかけは十分つくれると思われるので、継続的な取り組みを期待している。</p> <p>(2)は、図書館事業に対する要望を伺ったところ、ここに記載した意見があった。</p> <p>「移動図書館を保育園にもお願いしたい」という意見が複数あるが、通常、小学校を回って貸出を行っているので、夏休み期間中なら可能ではあるが、そこで貸出をするとすると管理上の問題も出てくるので、十分に検討する必要がある。</p> <p>以上、アンケート結果の説明とする。</p> <p>なお、資料の11ページの「学校図書館蔵書数の達成率」は、計画書の平成17年度の達成率と比較して平成19年度の達成率は小学校で12.1ポイントの増、中学校で9.2ポイントの増となっている。</p> <p>次に、「行田市立図書館の蔵書数及び貸出状況」は、蔵書数は平成17年度と比較して平成19年度は29,640冊の増加で、202,481冊となっている。</p> <p>貸出状況は平成17年度と比較して平成19年度は合計で2,181冊の増加で、469,920冊となっている。児童書だけを見ると、図書館での貸し出しは2,908冊増加しているものの、移動図書館が3,226冊減少しており、全体では318冊の減少となっている。移動図書館での貸出冊数が減少している主な原因は児童数の減少が考えられる。</p> <p>以上が「行田市子ども読書活動推進計画」の進捗状況についての説明とする。</p> <p>地域公民館の図書室の古くなった本は、どう処分したらいいのか。</p> <p>地域公民館の図書室の本は、それぞれの公民館の蔵書になるため、処分が必要な場合はその公民館の判断で行える。もし、判断に迷うような場合は、図書館に相談してくれればアドバイスする。</p>
----------------------	---

委員	<p>持田公民館では、公民館の図書委員が毎年図書の整理を行って必要でないものはその時処分している。</p>
委員	<p>ブックスタート事業を行っていても、0歳から本を読んであげていない家庭が2割もあるが、その理由は何なのか。</p>
事務局	<p>今回アンケートをお願いした保護者の中に、日本語が読めない外国人の方も何人かいたが、それも理由の一つだと思う。</p>
委員	<p>今回のアンケート結果で、ある程度子ども達の読書環境の変化が伺える。今後も折をみて、このような調査を実施してもらいたい。</p>
事務局	<p>(以上、「行田市子ども読書活動推進計画」の進捗状況についての検証とする。)</p>
事務局	<p>(3) 先進地視察について</p> <p>前回の協議会の中で承認をいただいたが、今年度は日帰りで図書館運営の先進地を視察することとなった。行田市では図書館独自で臨時職員を採用し窓口業務を行う直営方式だが、県内では業務の一部を委託しているところや、全ての業務を委託する指定管理者制度の導入を検討しているところもある。そこで、本市においても効率的な図書館運営を進める上で、業務委託や指定管理者制度の活用も視野に入れ、研究していきたいと考えている。</p> <p>平成19年度に県が行った調査によると、既に14市で一部委託を採用している。その内容は、窓口業務から館内奉仕業務など様々であるが、もし本市で採用するとしたらどのようなスタイルがよいのか、さらには、根本的な部分で業務委託や指定管理者制度により市民サービスは保たれるものなのかを研究したいと考えている。</p> <p>そこで、候補地として、窓口業務の業務委託を行っているさいたま市の北図書館を候補地として提案する。</p> <p>この図書館は本年5月に開館したばかりの新しい図書館で、「プラザノース」という区役所や美術ギャラリーなどを併せ持つ複合施設の中に設置されている。窓口業務は「図書館流通センター」</p>

<p>委員</p> <p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>という民間企業に委託しており、市職員と委託業者が混在する運営となっている。もしこの図書館でよければ、早速アポイントを取り視察日程を調整する。</p> <p>なお、せっかくの機会なので、他に先進的な施設があれば、併せて視察をしたいと考えているので了承願いたい。</p> <p>また、日程は、来年の1月末～2月の中旬に計画したいと考えているが、何分、相手方があることなので、その調整についてはお任せいただきたい。</p> <p>前回の視察では、川口市立図書館の他、NHKのアーカイブスを視察したが、このような先進的な施設は機会がないとなかなか行けないので是非考慮してほしい。</p> <p>さいたま市立北図書館の近くに交通博物館があるが、このような集客力のある施設の視察もよいのではないか。</p> <p>ただ今の意見を参考に事務局でよく調査し、視察場所を選定する。</p> <p>(以上、先進地視察について、出席委員の承諾を得た。)</p> <p>4 閉会のあいさつ 長谷川副委員長</p> <p>以上で行田市立図書館協議会を閉会とする。</p>
--------------------------------	---